
闇の少女と光の少女

戸山羅花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇の少女と光の少女

【Nコード】

N6137N

【作者名】

戸山羅花

【あらすじ】

ノリで書いた、初の短編

（前書き）

初めてなので、お手柔らかにお願いします。短い文は、ちょっと苦手っぽいので……

闇の少女は光の少女を羨む。

また、光の少女も、暗闇の少女を羨む。

二人は、二人で一人。どちらも欠けて、どちらも同じ。ただ違うのは

住処

「……ん」

暗闇の中、少女は身を起こす。見渡す限りの闇。

だが、闇は少女、決して怖くない。

もう一人の少女も、目を覚ます。見渡す限りの光。眩しすぎず、優しく照らす。

二人の少女が目覚めると、世界を覆う時間の氷は溶け出し、時が流れ始める。

闇の少女と光の少女。二人でこの世界を動かしていく。

二人は、お互いのことを知らない。ただ、存在を知り、その存在を羨むだけ。

だから、初めて会うこの日、二人はお互いを見詰めて驚いていた。

闇夜を映す漆黒なる黒き衣を纏いしは、闇の少女。大鎌をその手に持ち、光を切り裂く。

光明を映す純白なる衣を纏いしは、光の少女。照陽の鏡をその手に

持ち、闇を照らす。

服装は全く違う。それぞれがまるで神の様な身振り。だが、
『……まるでそっくりだ……』
髪はどちらにも混ざったように銀。眼は片目ずつ黒と金。透き通る
ような肌は二人全く相違ない。

「これは、私なのか？」

闇の少女が口を開く。

「私達は、二人で一人。互いを護る為に存在するのよ」

物知りな光の少女は答える。

「何故、私達は出会った？」

闇の少女が聞く。

「神が望むからよ」

光の少女は答える。

なら……

「神とは誰だ？」

二人の声が重なる。声まで同じのようだ。

「知らぬか」

「知らないわ」

「そうか」
「そうよ」

何だかどこかずれている二人。それを分かっているながら、この可笑しな状況を楽しんでいた。

「神とは、面白いものだな」
「おいしい、と聞いたことがあるわ」
「本当か」
「ええ」

闇の少女は小さく笑うと、光の少女に言った。

「ならば、探してみないか？私は美味しいものが好きだ」
「私もよ。でも……どうやって？」
「簡単な事だ」

そこで、一旦言葉を切る。そして、歪な笑みを浮かべながら、最後の言葉を紡ぐ。

「全ての神とやらを喰らおうではないか。きっとお前となら容易いことだろう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6137n/>

闇の少女と光の少女

2010年10月21日07時52分発行